

松戸市立博物館調査報告書 『森の住宅都市 常盤平団地の生活史 1960-2022』刊行

松戸市立博物館で刊行した『森の住宅都市 常盤平団地の生活史 1960-2022』は、千葉県松戸市に所在する常盤平団地における1960年からの居住者の生活史の記録です。

この団地の入居開始当初の居住者は、世帯主が20歳代から30歳代の家族が大半を占める若い人々でした。そして、60年を超える長い歳月が過ぎ、65歳以上の高齢者が居住者の半数を超える高齢化が大きく進んだ団地となりました。本調査報告書は、入居開始当初の若い人々の生活と現在の高齢居住者の生活までの人々の生活の営みを記しています。

さらに常盤平団地が緑豊かな住宅都市として計画され、団地内の緑地が成長し、現在、新たに社会的な評価を得ていることを記しています。

● 本報告書の構成

本書は4編、10章によって構成されています。以下では1編から4編の内容を紹介します。

第1編 常盤平団地の誕生から現在（第1章、第2章、第3章）

第1編では、第1章で常盤平団地の建設のプロセスを記します。第2章はこの団地の入居開始当初の居住者の特色を明らかにします。そして、第3章で常盤平団地が建て替えられなかった経緯、またこの団地の居住者の半数が65歳以上の高齢者となったことなど、現在の常盤平団地の姿を記します。

第2編 常盤平団地の生活史Ⅰ（第4章、第5章、第6章）

第2編では、「常盤平団地自治会」を始めとするこの団地に居住する人々による自主的な組織、グループが、常盤平団地入居開始1960年からの生活を改善していく活動に注目します。

第3編 常盤平団地の生活史Ⅱ（第7章、第8章、第9章）

第3編では、子どもの成長を記録した家族写真、居住者個人への調査によってこの団地に居住する人々の生活の営みに注目します。入居開始当初から現在まで常盤平団地居住者の60年を超える歳月の生活の営みを記します。

第4編 森の住宅都市 常盤平団地

第4編「森の住宅都市 常盤平団地」では、常盤平団地が緑豊かな団地となった経緯について、基本計画の段階から企画されたことを述べ。さらに、現在のこの団地の緑地が地域の社会資源としての新たな評価を受けていることを記します。

●販売価格 1,200円（市立博物館ミュージアムショップで販売）

(参考写真)

「常盤平団地空撮写真」(1960年推定・日本住宅公団撮影・松戸市立博物館蔵)



「交差点からみた入居開始当初のケヤキの街路樹」(1960年推定・松戸市立博物館蔵)



【本件に関する問い合わせ先】

〒270-2252 松戸市千駄堀671

松戸市生涯学習部 文化財保存活用課博物館(月曜休館)

☎047-384-8272 FAX047-384-8194

✉ mchakubutsukan@city.matsudo.chiba.jp